




北会津 鉢伏山(1576.2m)、飯森山 (1595.4m) (無雪期ピークハント/縦 走 / 東北)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年06月02日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

晴れ

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

5:29 登山口 -- 8:57 鉢伏山(休憩) 9:22 -- 9:57 飯森山(昼寝) 10:54 -- 11:26 鉢
伏山 11:46 -- 13:51 登山口

コース状況/その他周辺情報 :

- ・ 飯森山まで刈り払われた登山道が続く
- ・ 鉢伏山は低い灌木で展望良好。飯森山は灌木の高さが微妙で展望悪い
- ・ 飯森山～小梅峰間は登山道無しで灌木藪が続く
- ・ 大桧沢にも登山道あり。ただし案内図によると登り専用とのこと
- ・ この時期は既に大量に虫が発生し、虫よけ必携。それでも数か所刺された

- ・まとまった残雪は1482m峰の下りから鉢伏山の登りと、鉢伏山の下りから飯森山の登り。アイゼン不要だった
- ・帰路の鉢伏山への登り返しで子熊を目撃。100m程度離れていた

 写真：



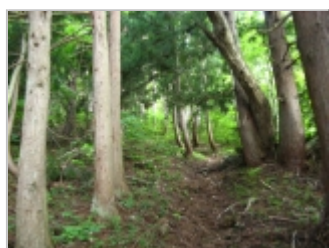
登山口付近の林道。交通量少なく路側駐車可能



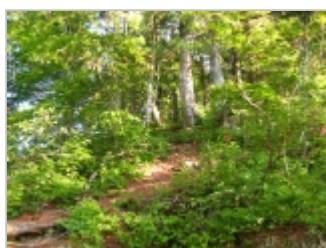
登山口



登山道案内図。大桧沢にもルートあり



急登から始まる



標高700mで尾根に乗る



良好な登山道が続く



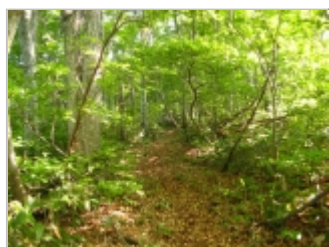
872.7m三角点手前の展望台。でも葉が茂って全く展望は無い



872.7m三角点。最高点ではなく南側に下がった場所にある。往路は見つけられず帰路に発見できた



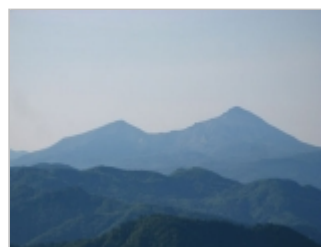
所々に祠が点在する



新緑がまぶしい



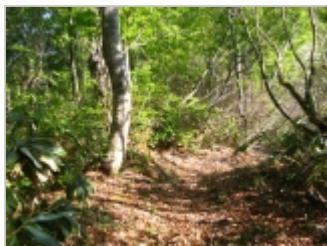
熊の糞



東には磐梯山



1260峰。てっぺんを通らず西側を巻く



1260m峰より下る



1285m峰



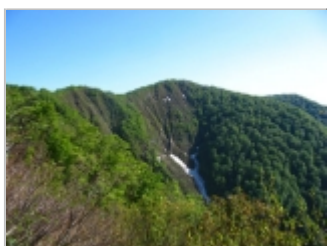
ブナ林



標高1380m付近の遭難慰霊碑



1380.7m三角点付近。探したが見つけれず



1482m峰



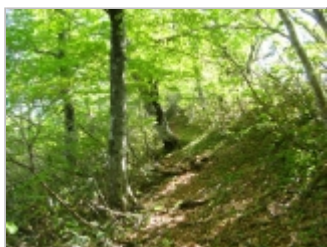
1380.7m三角点峰を振り返る



1430m峰に登る



1430m峰の下りで残雪登場



再びブナ林に行く



登ってきた尾根を振り返る



南会津の山々



新潟の山々



1482m峰



1482m峰から見た鉢伏山



1482m峰北側の残雪帯



1482m峰－鉢伏山鞍部
「高倉窪キャンプ場」と書
かれている



鉢伏山への登り



1482m峰を振り返る



残雪帯が終わって森林限界
っぽくなる



鉢伏山山頂。虫が多かっ
た！



鉢伏山から見た飯森山



鉢伏山から見た飯豊連峰



鉢伏山から見た朝日連峰と
月山



鉢伏山から見た飯豊連峰～
飯森山の県境稜線。道なし



鉢伏山から見た南半分の展
望



飯森山に向かう



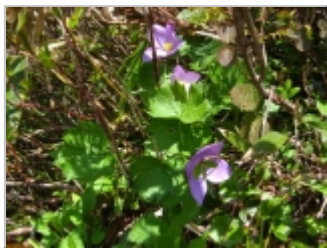
鉢伏山－飯森山鞍部



飯森山への登り



県境の1590m峰から見た
飯森山



今年初めて見るシラネアオイ。周囲はカタクリがたくさん咲いていた



鉢伏山を振り返る



飯森山山頂。ここはあまり展望は良くない



飯森山の1等三角点



飯森山から見た柵峰



飯森神社。山頂の少し先にある



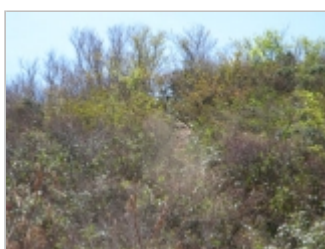
大桧沢に下るルート。まだ残雪に埋もれている



飯森山を正面に見ながら下山始



鉢伏山 - 飯森山鞍部付近の祠



鉢伏山への登り返しの登山道に小熊を発見し、急いでデジカメを取り出したが撮影数秒前に藪に消えてしまった。残念！



つきたてほやほやの熊の足跡。やはり小さい



小熊のトレース



鉢伏山を出発

鞍部が近づくと残雪登場。
涼しい！1380.7m三角点峰付近。
帰りも三角点を探したが発
見できず

登山口到着

感想／記録 : (by gekiyabu)

もう残雪期も標高の高いところ以外は終わりのシーズン。どこに行こうか考えた末、もしかしたらまだ雪があるかもしれない東北へ。飯豊と吾妻連峰を結ぶ稜線上の飯森山、栂峰を狙うことにする。飯森山と栂峰はそれぞれ福島側と山形側から個別に登山道があって登ることは可能だが、雪が残って藪が埋もれていればいっぺんに登ることが可能だ。雪がなければ飯森山だけで我慢しよう。

磐越道磐梯山SAで仮眠。一般道に移って国道121号線を北上、日中ダムの案内で右折、トンネルを抜けてダムへ。ダム湖の右岸側林道を僅かに入ると鳥居の立つ登山口登場。駐車場は無いがカーブで道幅があるので数台なら路駐可能。まだ車は1台も無い。朝飯を食って出発。装備をどうするか考えたが、高いところでも雪はあまり無さそうで6本爪軽アイゼンにストックとした。

いきなりの急登から入り、尾根めがけてグングン高度を上げる。登山道はよく手入れがされて1級の道だ。気温は低めで10℃、Tシャツでそこそこ涼しく感じる。標高約700mで尾根に出る。登山道がない下部の尾根側は緑の木々が覆っている。しかし新潟のように根曲がり灌木藪ではないので、もし登山道が無くても大丈夫だろう。もちろん、道があった方がずっと楽に歩けるので大助かり。

尾根に乗っても急な登りが続く。1本道なので迷う心配はないし、整備状況も良好なままだ。ブナの新緑が鮮やかだが、ほぼ樹林が続いて展望が開ける場所は少ない。標高872.7m肩で三角点があるはずで、往路の現在位置確認のため気にしながら歩く。肩に

乗って緩やかながらも最高点付近で三角点探索を行ったが発見できなかった。三角点の位置は最高点よりも南側に上がったところで、登山道のすぐ東側脇にあるのを帰路に発見できた。

1173m峰は西側から巻き、1285m峰を越えて1380.7m三角点峰へと登る。このピークも872.7m肩三角点と同様に同じような高さの肩が続くピークで、今度は登山道が稜線の西側直下を巻いているため藪の中で三角点を探さなくてはならない。粘ったが見つけれずにとりあえず先に進んだ。帰りにも探索を行ったが三角点の位置は特定できなかった。

1410m峰を越えると東斜面は雪崩に磨かれた木のない急斜面になり、その崖っぷちが登山道になっている。積雪期の影響か灌木が西側からかぶり気味で少々歩きにくい。東側が切れ落ちているし木がないので展望がよい場所だ。南から南西方向に霞んでいるが白い山々が見えたが、帰ってから「写真判定」したら南会津から越後三山、川内山塊付近だった。

1430m峰の下りで今回初めてまとまった残雪が登場、しかし下るとすぐに夏道に。1482m峰の下りはずっと残雪豊富で、鉢伏山との鞍部まで雪の上を滑って下った。鞍部には「高倉窪キャンプ場」の標識があり、テントを張れる場所があるらしい。水場もあるのかな？

鞍部から登りにかかると残雪帯が夏道から逃げて藪を通過する箇所があるので夏道の方を登る。傾斜が緩むと再び残雪に乗ることができるが、斜面が立ち上がると雪が消えて夏道歩き。もう日が高く気温が上昇して暑い。おまけに虫が飛び回って鬱陶しい。もうそんな季節なのだ。

登り切ったところが鉢伏山山頂。森林限界をギリギリ超えていて、周囲は低い灌木のみで展望良好。西にはまだ白い飯豊連峰。北には少し白い朝日連峰に、かなり白い月山。蔵王には残雪は見られない。西吾妻山はシラビソ樹林の下がまだ白い。出発から3時間半が経過しているので休憩。しかし虫が滅茶苦茶多く、油断をするとすぐに刺される。濡れタオルで顔、首、腕の汗を拭い虫除けスプレーでガード。これで皮膚にたかる虫はいなくなった。

休憩を終えて飯森山に向けて出発。ここからしばし豊富な残雪が楽しめた。部分的に夏道が出ているが、残雪が繋がっているので下り区間は雪の上を滑るように進む。夏道は稜線よりやや北側を通っているようだが、こちらはほぼ稜線沿いに進む。最低鞍部から登りにかかると雪が減って尾根東側縁にしがみつくようにしか残っていない。雪が途切れたところで夏道に乗り換えて、日差しに焼かれながら山頂目指す。

標高1590mで県境稜線に合流、地形図ではここから西の県境稜線上にも道があることになっているが、実際には踏跡皆無で笹と灌木藪。無雪期に突っ込みたくはない植生だ。刈り払われた登山道に感謝。ルートは右に曲がってほぼ水平移動し、僅かに登ったピークが飯森山山頂だった。登山道は山頂直下を巻いていて、細い道で山頂広場に到着。三角点がでかいので確認したら1等三角点。久しぶりに目にした。ここも森林限界ギリギリだが、鉢伏山よりも僅かに灌木の背が高く展望は良くない。ここで休んでもおもしろくないので登山道に戻って山頂北側に続く残雪帯で休憩することに。

その前に柵峰へ行けるかどうかの確認。まだ登山道は続き、奥の肩に飯森神社の小さな祠があった。さらに道は続くが案内標識では大桧沢へ下る道とのこと。最初の小鞍部で刈り払いは尾根を外れて沢沿いの残雪に埋もれてしまい、稜線上は灌木と笹の藪。もう雪は大半が消えてしまっており、柵峰間でそれなりの藪漕ぎが必要なことは明白なので、今回はここまでとする。せめて気温が低くて虫がいなければ挑戦する気にもなっただろう。山頂直下の残雪帯に戻ってお昼寝タイム。

下山開始。今日はまだ人に会っていないがこのまま誰も登ってこないのであろうか。鉢伏山へと続く残雪上には人影はない。鞍部からの登り返しは夏道を行ったが、前方の登山道に人が見えないか見上げてみると、人間ではなく真っ黒い物体が歩いている。数年ぶりの熊の姿。大きさからしてまだ小熊と思われた。距離は100m程度、急いでデジカメを取り出して写真撮影しようとしたが、小熊はすぐに登山道を逸れて西側の藪に突入してしまい、その姿を写真に撮ることはできなかった。私の場合、人が少ない山では常時熊よけの鈴を付けているので、熊が先に気づいたのだろう。念のため手をはたきながら(鈴よりも音が大きく熊が気づきやすい)登山道を進んで小さな雪田に乗ると小さめの熊の足跡が登場。やっぱり小熊だ。次の残雪帯にはもう足跡は無く、この間の藪に入ったのだった。

代わりに次の残雪帯(鉢伏山山頂直下)には、私以外に往復した人間の足跡が登場。山頂には単独男性が休憩中。本日初めてのお客さんだ。私だけでなくこの男性にも虫が群がっていた。熊の存在には気づかなかったようだ。距離は山頂から100mはあっただろうし当然か。少し話をしてから先に出発。もうお昼過ぎで登ってくる人はいないだろうと思っただらぶん3人とすれ違った(2人は確実)。森林限界を切って背の高いブナ林に入ると日陰でほっとするが、標高が落ちてくると気温が上昇するのが体感できる。

登山口に出ると車は私の他は1台のみ。他の登山者はダムの駐車場に車を置いて登山口まで歩いたのだろう。日差しは強く車の中は暑かった。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.

<http://www.yamareco.com/>